

人財育成の考え方とそのしくみ



「大切にされていると実感できる場所」
伊豆長岡学園

社会福祉法人共生会 伊豆長岡学園

伊豆長岡学園の人財育成のコンセプト（考え方）①

→「子どもの人権擁護を行うには人財育成にかかっている」

・入職時の新任研修で、人権擁護や他施設で起きた被措置児童虐待の事故事件について、重点的に伝達しています。

単なる失敗と意図的な違反行為について明確に境界を示しています。

・職員会議で全体討議を毎月行い、人権擁護や心理的安全性についてのテーマを、ファシリテーション研修を受けた職員がファシリテーターとなり、人権擁護について話し合いを継続しています。
守るべき基準を焦点化して何度も確認をしています。

→重大事件・事故防止

伊豆長岡学園の人財育成のコンセプト（考え方）②

「人権擁護と人財育成は正比例の関係である」

「伝え方」と「聴き方」次第で結果（人と人との関係性）が大きく変わるため、「伝え方」や「聴き方」の中身が人財育成のレベルを表す尺度だと我々は考えています。

上記の内容は、

- ①子どもに対する「伝え方」「聴き方」
- ②職員に対する「伝え方」「聴き方」
- ①②両方の基準を高くしていくことだと考えています。

「人権擁護の基準」は「求める人材像」（25項目、5段階）に明示しています（伊豆長岡学園のHPのお知らせ欄「採用説明会」）。

心理的安全性と仕事ぶりの基準

(重大事件・事故防止のための心理的安全性の職場づくり)

高い↑
心理的安全性
↓
低い

楽な職場	学ぶ職場
無気力な職場	不安な職場

低い ←仕事ぶりの基準→ 高い

出典 『介護職が「働き続けたい」と思える職場のつくり方』 富永真己著

職員の心理的安全性を高めるための留意点 (職員の心理的安全性→子どもの心理的安全性)

心がまえ	理由	言動・行動	返す言葉
誰でも失敗はする わからないこと、 知らないことは恥 ではない <u>*意見や考えを言 わない「沈黙」こ そ危険である</u>	失敗から学ぶこと が大事 わからない、知ら ない、は「学ぶ」 ための気づき 意見や考えの違い を知ることから始 まる相互理解	失敗について話す 素直に謝る 質問する 意見を求める 提案する	「ありがとう」 「お互い様」 「私も失敗する」 <u>*噂話、陰口、悪 口は 絶対× (NGワー ド)</u>

出典『介護職が「働き続けたい」と思える職場のつくり方』富永真己著

目指したい人財育成の目標・職場

「人にやさしく、結果に厳しく」

「ハイパフォーマンスを目指す人にとって
居心地が良い職場」

「この職場で頑張れば人として成長できる実感が
持てる職場」

職員育成制度→求める人材の明確化について

「求める人材像」を明らかにしています。

この「求める人材像（階層別）」を自己育成計画表に反映させ、年に3回、管理職とのヒヤリングを実施しています。

管理職とのヒヤリングにて自己チェック、他者チェックをするとともに日頃の悩みや相談事を率直に相談できる機会としています。

その他、要望や意見、提案なども管理職に伝えることができるような機会としています。

伊豆長岡学園の職員育成計画書の内容

領域	養育の専門職として基底をなすもの	児童の養育に必要な専門知識	チームアプローチと職種間連携	関係機関との連携 保護者支援
初級 (1～3年目)	<ul style="list-style-type: none"> 児童養護施設の役割 施設の理念 職員マナーの習得 基本的接遇 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階の理解 子どもの心理的社会的発達 基本的な生活環境の提供 養育者としての基本姿勢 児童の入所前の理解 	<ul style="list-style-type: none"> チームアプローチの重要性 報告連絡相談の徹底 連絡相談系統の理解 他職種との連携の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 電話対応等の基本スキル 基本的接遇の習得 家族理解 各種関係機関の役割や連携の理解
中級 (4～6年目)	<ul style="list-style-type: none"> 組織性の理解と遵守 緊急時の初期対応 主体的な責任のある行動 児童福祉法の理解 学び続ける姿勢を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの抱える困難さの理解 愛着理論の理解 アセスメント力 心理的知見の理解 食育・行事企画力 	<ul style="list-style-type: none"> 援助チームのあり方と実践 他社理解 新任職員の相談対応や助言 記録や引継ぎの効果的な伝達 多機関協働との連携力 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援 電話や面会対応 アセスメント 関係機関との協働
上級 (7年以上)	<ul style="list-style-type: none"> 発案力 子どもの権利保障 自責で物事を捉える 自己研鑽 	<ul style="list-style-type: none"> 多種多様なリスク管理 ケースカンファレンスの進行 思春期・青年期の理解 傾聴及び説明力の向上 自己管理（健康・メンタル） 	<ul style="list-style-type: none"> 適切なスーパーバイズ 良好な援助チームの維持 援助チームのメンタルヘルス 援助チームの業務管理 措置費、制度の理解 	<ul style="list-style-type: none"> 家族再統合の理解 苦情対応力 多機関との連携の評価と改善
管理職	<ul style="list-style-type: none"> 施設運営の評価と改善強化 スーパーバイザーとしての資質 人材確保・育成・定着と研修の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 会議、施設内研修の進行管理 職員への助言、指導 子どもの不適応行動への指導 自発的な知識や知恵の獲得 	<ul style="list-style-type: none"> 運営の課題点の把握と改善 職場のメンタルヘルス 施設会計の理解 計画的な予算執行と管理 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者支援の評価と改善 家族支援のアセスメント 関係機関との連携強化

伊豆長岡学園の新任職員指導育成計画書の内容

領域

到達目標

1 養育の専門職としての基底をなすもの

- ・施設の理念や行動指針を理解している。
- ・職員としてのマナー、社会性を身につける。
- ・緊急時の初期対応を理解している。

- ・理念や行動指針を自分の言葉で言えるようになる。
- ・職員としてのふさわしい挨拶、行動ができるようになる。
- ・時間を守る・施設内のゴミを拾う・嘘をつかない。
- ・感謝の気持ちが伝えられる・身だしなみがしっかりしている。
- ・先輩・同僚・子どもへの言葉遣いを適切に使える。
- ・緊急時の初期対応を言葉で説明できる。

2 チームアプローチと職種間連携

- ・施設の組織の役割を理解している。
- ・チームアプローチの理解をしている。
- ・職種間連携と協働について理解している。

- ・施設の事業内容や分掌を理解する。
- ・チームアプローチの重要性を理解する。
- ・他職種との連携の重要性を理解する。

3 関係機関との連携・対応

- ・関係機関（保護者）対応の姿勢、あり方
- ・施設の沿革を理解している。
- ・施設概要を理解している。
- ・施設の資材・場所を理解している。
- ・連絡先、報告先、相談先を理解している。

- ・基本的な社会スキルの習得（接遇）
- ・施設について他の人々に説明することができる。
- ・施設について案内できるようになる。
- ・資材や場所について理解し、使えるようになる。
- ・報告、連絡、相談を適切に行える。
- ・連絡相談システムを理解する。

毎月の先輩職員と指導育成計画の振り返り内容（OJT）

（先輩職員と月1回、下記の内容で振り返りを行うとともに
困りごと、悩み事の相談を丁寧に行っています）

振り返りの項目	振り返りの内容
子どもとの 関わりについて	<ul style="list-style-type: none">・積極的に子どもと関わることができているか。・子どもとの関わりと業務を両立できているか。
業務関係	<ul style="list-style-type: none">・引継ぎ漏れや業務のやり忘れがないか。
専門職・役割	<ul style="list-style-type: none">・所属する委員会や係の業務を覚え、手が空いている時間に業務を遂行できているか。
職員間連携	<ul style="list-style-type: none">・ユニットやホームのメンバーとの信頼関係の構築に関して意識した行動がとれているか。

子どもたちと共に成長⇒様々な事情を抱えた子どもたちと伴走することによって、自分自身も磨かれ鍛えられます。

⇒修行をしているかのように「自分自身が成長した分だけ、子どもたちも成長する」と考えています。

自分自身の成長と子どもたちの成長を
目指したい人にとって
対人援助職の醍醐味を実感することに
最大限こだわっている施設
それが、わたしたち伊豆長岡学園です。



「大切にされていると実感できる場所」
伊豆長岡学園

最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。